

◆2021年3月期第2四半期決算説明要旨◆

●2021年3月期第2四半期連結業績

売上高は前年同期比72億79百万円減、6.1%ダウンの1,114億86百万円、営業利益は同6億23百万円減、9.0%ダウンの63億24百万円、経常利益は同2億86百万円減、4.4%ダウンの62億4百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は同3億82百万円減、8.4%ダウンの41億59百万円となった。

リンテック単体と連結子会社の業績については、売上高は単体が前年同期比52億80百万円減、6.8%ダウンの729億17百万円、連結子会社が同11億85百万円減、2.0%ダウンの583億20百万円となった。営業利益は単体が前年同期比8億30百万円減、21.8%ダウンの29億77百万円、連結子会社が同1億82百万円増、5.9%アップの32億59百万円となった。

売上高は、単体ではアドバンストマテリアルズ事業部門が好調に推移したものの、その他の事業部門は新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けて低調に推移した。連結子会社ではアドバンストマテリアルズ事業部門の製造・販売子会社は好調に推移したものの、印刷・情報材、産業工材事業部門の米国、中国、アセアン地域の子会社がコロナ禍の影響を受けて総じて低調に推移した。

営業利益は、単体では売上構成の改善により約5億円、パルプ、石化原材料価格などが下落したことにより約11億円、出張旅費などの経費抑制で約4億円の増益効果があった。一方で、販売数量の減少で約18億円、受注減少に伴う工場の操業差損などで約10億円の減益影響があった。連結子会社では米国のマディコ社やアセアン地域の子会社は総じて減益となったが、アドバンストマテリアルズ事業部門の子会社の増収効果により増益となった。

セグメント別では、印刷材・産業工材関連の売上高は、印刷・情報材事業部門が前年同期比28億79百万円減、6.6%ダウンの410億29百万円、産業工材事業部門が前年同期比31億74百万円減、18.3%ダウンの142億8百万円となった。セグメント全体の売上高は前年同期比60億54百万円減、9.9%ダウンの552億38百万円、営業利益は17億5百万円減の9億34百万円の営業損失となった。

当セグメントの事業部門別売上高の概要については、印刷・情報材事業部門のシール・ラベル用粘着製品は、国内では医療・医薬関連の需要が堅調だったものの、自動車や化粧品関連を中心にさまざまな分野でラベル需要が減少したことにより低調に推移した。海外では米国は前年同期並みとなったが、中国やアセアン地域は低調に推移した。産業工材事業部門は、国内外における自動車の生産台数減少の影響などにより二輪を含む自動車用粘着製品やウインドーフィルムが大幅に減少したほか、各種イベントの中止などに伴い装飾関連フィルムの需要が低調に推移した。

電子・光学関連の売上高は、アドバンストマテリアルズ事業部門が前年同期比52億61百万円増、25.0%アップの262億68百万円、オプティカル材事業部門が22億64百万円減、12.7%ダウンの156億24百万円となった。セグメント全体の売上高は前年同期比29億96百万円増、7.7%アップの418億93百万円、営業利益は18億1百万円増、39.7%アップの63億35百万円となった。

当セグメントの事業部門別売上高の概要については、アドバンストマテリアルズ事業部門は5G関連やテレワークによるパソコンなどの需要増加により、半導体関連粘着テープおよび関連装置、積層セラミックコンデンサ関連テープともに好調に推移した。オプティカル材事業部門は光学ディスプレイ関連粘着製品が、大型テレビ用およびスマートフォン用などの中小型向けともに需要低迷の影響を受けて低調に推移した。

洋紙・加工材関連の売上高は、洋紙事業部門が前年同期比15億36百万円減、18.1%ダウンの69億69百万円、加工材事業部門が26億85百万円減、26.7%ダウンの73億85百万円となった。セグメント全

体の売上高は前年同期比 42 億 21 百万円減、22.7%ダウンの 143 億 54 百万円、営業利益は 7 億 42 百万円減、46.8%ダウンの 8 億 45 百万円となった。

当セグメントの事業部門別売上高の概要については、洋紙事業部門はテレワークにより封筒用紙の需要が低迷したほか、休園・休校による影響を受けて色画用紙が低調に推移した。また、ファストフード用の耐油耐水紙も低調だった。加工材事業部門は航空機用などの炭素繊維複合材料用工程紙、シューズや自動車用などの合成皮革用工程紙が需要低迷の影響を受けて大きく落ち込んだ。

●2021 年 3 月期通期連結業績予想

当第 2 四半期連結累計期間の業績は、長引く米中貿易摩擦や年初からの新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大の影響により半導体・電子部品関連を除く数多くの製品需要が減退し、当初の想定を上回る受注の減少によって操業が大きく落ち込むなど、極めて厳しい結果となった。当第 3 四半期以降は国内外において受注の回復傾向にはあるものの、予断を許さない経営環境が続くと予想される。このような状況を勘案し、2020 年 5 月 8 日に公表した 2021 年 3 月期の通期連結業績予想を修正した。

売上高は上期実績 1,115 億円から下期は 1,145 億円になると見ており、通期では当初予想の 2,400 億円から 140 億円減額の 2,260 億円、営業利益は上期 63 億円から下期 67 億円、通期では当初予想の 150 億円から 20 億円減額の 130 億円、経常利益は上期 62 億円から下期 63 億円、通期では当初予想の 150 億円から 25 億円減額の 125 億円、親会社株主に帰属する当期純利益は上期 42 億円から下期 43 億円、通期では当初予想の 110 億円から 25 億円減額の 85 億円とした。

事業部門別売上高の見通しについては、印刷・情報材事業部門は国内では飲料用キャンペーンや人・物の動きの活発化、国内外における家電製品や自動車の生産の回復などによって、シール・ラベル用粘着製品の需要が徐々に持ち直すとしている。しかし、本格的な回復には至らず、当初予想の 889 億円から 55 億円減額の 834 億円とした。産業工材事業部門は自動車生産台数の回復に伴う自動車用粘着製品およびウインドフィルム需要増加や、通販向け装置の販売増を見込んでいるものの、当初予想には至らず、336 億円から 33 億円減額の 303 億円とした。印刷材・産業工材関連セグメントの売上高は当初予想の 1,225 億円から 88 億円減額の 1,137 億円、営業利益は当初予想の 7 億円からブレイクイーブンになると見込んでいる。

アドバンストマテリアルズ事業部門は半導体関連粘着テープおよび関連装置、積層セラミックコンデンサ関連テープは引き続き堅調に推移すると見ており、当初予想並みの 523 億円とした。オプティカル材事業部門はテレビ用およびスマートフォン用ともに上期並みで推移すると見ており、当初予想の 297 億円から 12 億円増額の 309 億円とした。電子・光学関連セグメントの売上高は当初予想の 822 億円から 10 億円増額の 832 億円、営業利益は当初予想の 112 億円から 4 億円増額の 116 億円になると見込んでいる。

洋紙事業部門は封筒用紙や色画用紙の需要が下期も低迷すると見ており、当初予想の 164 億円から 26 億円減額の 138 億円とした。加工材事業部門は合成皮革用工程紙が車両用などで回復基調にあるものの、炭素繊維複合材料用工程紙の需要が引き続き低調に推移すると見ており、当初予想の 189 億円から 36 億円減額の 153 億円とした。洋紙・加工材関連セグメントの売上高は当初予想の 353 億円から 62 億円減額の 291 億円、営業利益は当初予想の 31 億円から 17 億円減額の 14 億円になると見込んでいる。

配当については、中間配当金は当初予想どおり 1 株当たり 39 円を実施することとした。期末配当金は当初予想の 1 株当たり 39 円を変更していない。

以上